１．調査報告概要表

［認知症対応型共同生活介護用］　作成日　平成２１年４月２日

【評価実施概要】

事業所番号	２７７０９０２２８２
法人名	社会福祉法人　博乃会
事業所名	エイペックスひろのグループホーム
所在地	高槻市前島１丁目３６番１号 （電　話）０７２－６６９－５７０１

評価機関名	社会福祉法人　大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺１丁目１番５４号　大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成　２１年　３月　１３日

【情報提供票より】（平成　２１年　２月　２０日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	平成　１７年　５月　１日		
ユニット数	２ユニット	利用定員数計	１８人
職員数	１４人	常勤　１０人, 非常勤　４人, 常勤換算　１２．７人	

（２）建物概要

建物構造	鉄筋　造り
	２階建ての　　１階　～　　２階部分

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	４５，０００円	その他の経費（日額）	５００円／１日
敷　　金	有（　　　　円）　〇無		
保証金の有無（入居一時金含む）	〇有（３５０，０００円） 無	有りの場合 償却の有無	〇有　／　無
食材料費	朝食　　円	昼食	円
	夕食　　円	おやつ	円
	または１日当たり　１，５００円		

（４）利用者の概要（平成　２１年　２月　２０日現在）

利用者人数	１８名	男性	０名	女性	１８名
要介護１	３名		要介護２	７名	
要介護３	６名		要介護４	１名	
要介護５	１名		要支援２	０名	
年齢	平均　９１歳	最低	８３歳	最高	１００歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	高槻病院、第一東和会病院、北摂総合病院、ひぐち歯科、ひろのクリニック

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成１７年に市から要請を受けて応募し開設した、２ユニットのグループホームです。母体の社会福祉法人は特別養護老人ホーム、ケアハウス、訪問介護、居宅介護支援事業所、診療所を併設した複合施設です。市の委託を受けて地域包括支援センターも運営しています。ホームの周辺には田畑が点在し、淀川の堤防が見える自然豊かな地域にある母体に併設されました。毎朝の散歩で地域の方と挨拶を交わす関係ができています。グループホームの理念のもとに「その人らしい生活が出来る。利用者本位で過剰介護にならないように、出来ることは自らしていただく。あきらめさせないこと」を目標にしています。高齢化が進む利用者に「ここが自分の家で、ずっとここにいたい」と思ってもらえるホームとして、利用者の生活を支援していきたいと職員は一人ひとりが日々楽しめる生活を工夫しています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連科目：外部 4）
	外部評価結果はグループホーム会議で報告し、改善に向けて検討しています。運営推進会議にも評価結果を報告し、利用者家族や出席者に理解をしていただいています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部 4）
	サービス評価の意義や目的を全職員で共有するために、自己評価作成には職員全員で意見を出し合い取り組んでいます。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部 4,5,6）
	運営推進会議には市の介護保険課担当者・利用者家族・保佐人・自治会副会長・民生委員や時には利用者代表の参加を得ています。ホームからは外部評価結果の報告や法人で開催する行事の予定などを報告し、地域の協力を得られるよう相談しています。また、介護スタッフの人員確保について管理者から説明しています。ISO9001 の認証取得の研修実施についても報告しています。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部 7,8）
	家族の面会時には利用者の生活の様子を伝え、家族からの意見・要望を伺う機会を設けています。運営推進会議には利用者家族の代表者に出席していただき意見・要望を伺う機会を設けています。玄関脇には意見箱を設置しています。法人発行の『ひろのだより』にもグループホームの記事を記載し、ホームの職員紹介もしています。また、３ヶ月に１回法人の『給食便り』を発行し、健康管理や行事食のメニューを家族にも知らせています。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部 3）
	自治会・老人会には法人として加入しています。母体施設の夏祭りには地域の人を招待しています。保育園児の訪問を受けたり、中学生の体験学習に協力したりして、利用者との交流が生まれています。天気の良い日の散歩時には近隣の住民と挨拶を交わし、農家の方には季節の花や収穫された野菜（白菜・大根・きゅうり等）をいただくこともあります。

2．調　査　報　告　書

（　　　部分は重点項目です）

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営 １．理念と共有					
1	1	**○地域密着型サービスとしての理念** 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『①敬意をもって接します。②安心できるケアを提供します。③声かけ傾聴します。』をグループホーム独自の理念としています。更に地域密着型サービスとしての役割を目指せるような理念の再構築を検討しています。	○	地域密着型サービスとしての役割を目指した内容の新しい理念の作成に、取り組んでいくことが求められます。
2	2	**○理念の共有と日々の取り組み** 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は明文化され、スタッフカウンターの壁に、施設目標『親切』『丁寧』『迅速』『協調』と共に掲示しています。職員は日々のミーティングや業務の中で確認しています。		
２．地域との支えあい					
3	5	**○地域とのつきあい** 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	自治会・老人会には法人として加入しています。母体施設の夏祭りには近隣の方などを招待しています。保育園児の訪問を受けたり、中学生の体験学習に協力したりして、利用者との交流ができています。天気の良い日の散歩時には近隣の住民と挨拶を交わし、農家の方には季節の花や収穫した野菜（白菜・大根・きゅうりなど）を頂くこともあります。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
３．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	**〇評価の意義の理解と活用** 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を管理者は理解しており、評価結果はグループホーム会議で報告し、改善に向けて検討しています。運営推進会議にも評価結果を報告し、利用者家族や出席者に理解をしていただいています。自己評価作成には職員全員で意見を出し合い取り組んでいます。		
5	8	**〇運営推進会議を活かした取り組み** 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には市の介護保険課担当者・利用者家族・保佐人・自治会副会長・民生委員、時には利用者の参加を得ています。ホームからは外部評価結果の報告や法人で開催する行事の予定などを報告し、地域の協力を得られるよう相談しています。また、介護スタッフの人員確保について管理者から説明をしています。ＩＳＯ9001 の認証取得の研修実施についても報告しています。会議の規定も作成され「守秘義務」の項目も定めています。２０年度の開催は４回でした。	〇	運営推進会議は会議規定通り、概ね２ヶ月に１回、少なくとも年６回の開催が求められます。市の担当者の参加がない場合は地域包括支援センターの職員へ参加を依頼してはいかがでしょうか。
6	9	**〇　市町村との連携** 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会つくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護保険課担当者が運営推進会議に参加しており、欠席の場合は書面で市に報告をしています。市の介護保険事業所連絡会に出席し、情報を得ています。月２回、市の介護相談員（第三者委員）の訪問があり、利用者の相談窓口になってもらっています。市とは常に相談する体制を作っており、今回の外部評価結果の報告も提出する予定です。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
４．理念を実践するための体制					
7	14	**〇家族等への報告** 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常生活については面会時に話し合っています。健康面や金銭管理については毎月報告を行い、家族に確認印及びサインをもらっています。法人発行の『ひろのだより』にはグループホームの記事やホームの職員紹介なども掲載され、月１回家族に送付しています。		
8	15	**〇運営に関する家族等意見の反映** 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には利用者の生活の様子を伝え家族からの意見・要望を伺う機会を設けています。運営推進会議には家族代表者に出席していただき、意見・要望を表出してもらう機会を設けています。玄関脇には意見箱を設置しています。管理者は家族会を設けるために働きかけをしましたが、設立までには結びつきませんでした。運営推進会議の開催を予告して、家族の意見等を募る工夫をされてはいかがでしょうか。		
9	18	**〇職員の異動等による影響への配慮** 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット毎の担当スタッフをできるだけ固定し、利用者との馴染みの関係を維持するよう努力していますが、今年の職員交代は６名となっています。新しい職員には業務マニュアルに基づいてベテラン職員が付き、業務を共に行うＯＪＴ（On the Job Training）研修により認知症の方への対応を学び、利用者へのダメージを防ぐ工夫をしています。新人職員の紹介は家族の面会時に行っています。『ひろのだより』にも掲載しています。今後とも異動を最小限に抑えることが望まれます。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援					
10	19	**○職員を育てる取り組み** 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人で人材育成のため年間研修計画を作成し、毎月１回研修会を実施しています。「認知症ケア」「感染症」「緊急時対応」の研修も含まれています。ホーム職員もほぼ全員が参加し報告書を提出しています。また、毎週水曜日に法人の勉強会が開催され、法人の診療所医師・看護師・管理栄養士により医学的な知識について学んでいます。受講者は常勤・非常勤を問わず参加可能です。受講者は報告書を提出し、グループホーム会議において伝達研修を実施しています。		
11	20	**○同業者との交流を通じた向上** 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高槻市主催の介護保険事業所連絡会に属する地域密着型グループホーム連絡会に参加し、情報交換を行っています。以前、相互訪問等の交流がありましたが、今後も活動を更に深めることが望まれます。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅱ．安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	**〇馴染みながらのサービス利用** 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のケアハウスやデイサービスを利用していた方が、施設や職員に馴染みながらホームへの利用に移行しています。また、自宅での面接時は本人の身体状況や生活状況を把握し、家族の状態などを確認しています。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	**〇本人と共に過ごし支えあう関係** 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で、利用者の得意分野で役割を発揮していただけるよう、職員は日常生活の中で共に作業しながら、利用者から家事の手順・工夫について学んだり、来客を迎えるマナー等も教えてもらったりしています。以前折り紙の先生をしていた利用者から、難しい折り方を教えてもらった新任職員もいました。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **１．一人ひとりの把握**					
14	33	**○思いや意向の把握** 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活状況、趣味、したいこと、希望等をアセスメントに加え、日々の会話の中でその人が望む生活や、今何がしたいかなど利用者の意向を踏まえたサービスの提供を行えるように把握しています。朝の起床がゆっくりの利用者には朝食も遅い時間に摂っていただいています。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	**○チームでつくる利用者本位の介護計画** 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	居室担当者を定め担当利用者についてアセスメントを行い、サービス担当者会議で利用者一人ひとりの状態に応じたケアを検討し、介護計画を作成しています。家族に介護計画について説明し、確認印を得ています。職員はサービス担当者会議で介護計画の内容を周知しています。		
16	37	**○現状に即した介護計画の見直し** 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居時当初の介護計画は２週間後に見直しをし、その後は基本的に３ヶ月に１回見直しを行っています。月１回のカンファレンスで利用者一人ひとりについて評価を行った結果をサービス担当者会議で見直し、必要に応じて期間内でも介護計画の見直しを行っています。利用者個々のアセスメント記録、カンファレンス記録、モニタリング記録があります。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	**○事業所の多機能性を活かした支援** 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急時の受診・入院は家族に代わって提携医療機関に送迎するなどの支援体制を用意しています。ホームへの入居により、自宅ではできなかった家事などにも関わっていただき、介護度の改善にもつなげています。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	**○かかりつけ医の受診支援** 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人併設の診療所の管理医師がかかりつけ医になっており、随時受診しています。また、毎日特にトラブルがなくても、医師は白衣を着用せず、さりげなくホームを訪れ利用者一人ひとりに話しかけ、日常の様子をチェックしています。口腔ケアは週１回歯科衛生士のケアを受けています。入居前からのかかりつけの歯科医への受診する方もいます。緊急時など状況に応じて協力医療機関と連携をとっています。併設特養には看護師が夜間も常駐しています。		
19	47	**○重度化や終末期に向けた方針の共有** 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に希望された方には特養への入居申込書を提出していただいています。｢看取りの指針」を定めています。必要に応じて「看取り介護についての同意書」を交わせるよう用意し、家族・医師・看護師を交えて話し合いを行えるようにしています。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．　その人らしい暮らしの支援 （１）一人ひとりの尊重					
20	50	**○プライバシーの確保の徹底** 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重した、誇りやプライバシーを大切にした対応を心がけています。トイレ誘導時にも「お部屋にいきましょう」とさりげない声かけをしています。職員は入職時に個人情報保護に関する誓約書を交わし、退職者には在職時に知り得た個人情報に対する守秘義務の誓約書を提出しています。		
21	52	**○日々のその人らしい暮らし** 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活習慣やペースを大切にし、目覚めが遅い利用者には、朝食も遅れてゆっくり摂っていただく等、ライフスタイルに合わせた生活をしています。ホームの一日のスケジュールはありますが､無理に合わせようとせず、利用者ひとり一人の望みに応じた柔軟な対応を行っています。		
（２）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	**○食事を楽しむことのできる支援** 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	米飯はホームで炊飯し、副食は併設施設の厨房から運び、ホームで盛り付けています。利用者と共に配膳・下膳・片付けを行います。職員はさり気なく利用者の食事摂取をサポートしています。昨年まで職員は利用者とともに食事をしていましたが、現在職員は別室で食事を摂っています。	○	以前のように、職員も同じテーブルで一緒に同じ食事を摂られてはいかがでしょうか。１日のうち１食以上、職員１名でも利用者と同じ場所で同じものを食べながら楽しく食事できるよう、雰囲気づくりが求められます。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
23	57	**○入浴を楽しむことができる支援** 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週３回以上の入浴を午後に実施しています。一番風呂を好む方、ゆっくりと入浴したい方の要望に応えています。体調が悪く入浴ができない場合には清拭しています。		
		（３）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
24	59	**○役割、楽しみごと、気晴らしの支援** 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	折り紙の先生をしていた方は折り方を教えることを楽しみとされています。歌の好きな方からは昔の歌を教えてもらい職員も一緒に歌っています。書道やぬり絵を楽しまれる方の作品は、個別に作品集として綴り、家族にも喜ばれています。家族が持参された計算ドリルに熱心に挑戦する方もいます。併設の交流センターでのボランティアの「踊りの会」に毎週参加し「盆踊り」の練習が利用者の気晴らしになっています。		
25	61	**○日常的な外出支援** 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気が良ければ毎日散歩に出かけ、近隣の方と挨拶を交わす関係ができ、時には農家の方に、花やきゅうり、白菜等の作物をいただきます。みんなでスーパーマーケットへ買い物に行く機会もありましたが、最近は希望者が少なくなり、今後は個別外出での買い物に切り替える予定です。外出機会の少ない利用者でも週に１回は近隣を散歩し、外の空気に触れる機会を作っています。また施設内を散歩したりしています。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
		（４）安心と安全を支える支援			
26	66	**○鍵をかけないケアの実践** 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関の鍵は掛けていません。玄関前の道路は車や人通りは少ないのですが、ホームのすぐ側に淀川の堤防があり、車やダンプカーがよく通るために注意が必要であるとの判断から、ホーム内の自動ドアは電子錠で管理されていますが、暗証番号を電子錠の蓋部分に明記しています。また利用者が外出を希望する様子が見られた時は職員が同行しています。		
27	71	**○災害対策** 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は夜間を想定して月１回実施しています。消防署の指導も受けています。法人本部にはＡＥＤ（自動体外式除細動器）が設置してあり、ホームにも表示しています。職員は全員が救命講習を受け「普通救命講習終了証」を持っています。備蓄食品は特養と共有の倉庫に備蓄し、備蓄品リストと３日間の調理メニューを作っています。今後は非常食には火を使わずに食べられる物も加え、ホーム独自に一食分の食料と水を保管しておくことが望まれます。		
		（５）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
28	77	**○栄養摂取や水分確保の支援** 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体法人の管理栄養士が栄養バランス、カロリーを考慮したメニューにより 1350Ｋcal ～1500Ｋcal を一人ひとりの摂取状態に合わせて提供しています。食事摂取量・水分摂取量は把握し、コンピューターに入力しデータ管理しています。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
２．　その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （１）居心地のよい環境づくり					
29	81	**〇居心地のよい共用空間づくり** 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関扉は和風の大きな格子戸で、ホーム内も木質の素材が多く使われています。２階へのエレベーターの扉は和風柄になっています。リビングルーム・食堂のオープンスペースの壁面には季節に合わせた装飾をクラフト等で手作りしています。１階の広いガラス戸からは池や和風の中庭を眺めることができます。可動式の畳コーナーもあり、体操のときや休憩に使用しています。楽しそうに談話している利用者の姿が見られます。また床暖房で足元を暖かくしており、冬季は特に加湿に留意しています。		
30	83	**〇居心地よく過ごせる居室の配慮** 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはトイレ、洗面所、クローゼット、押入れ、家族と直接交信できるよう電話も設置されています。自宅で使用していた馴染みの鏡台・チェスト・テーブル・椅子等を持ち込んで居心地よく過ごせる工夫をしています。お仏壇を置いている方もあります。ひ孫の写真や家族が持参した花が飾ってあります。		